

おぼろげな会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

「風立ちぬ、いざ生きめやも」 『青鞥』創刊百年に向けて



うぐいすも伴奏した？
大和田葉子さん野外コンサート(7/31)

ツやシラカバの黄葉ももうすぐです。

好評だった母親大会の講座

続いて今年の日本母親大会は福島でした。『青鞥』百年を前に、表紙絵で有名な長沼(高村)智恵子の出身地とあって講座「青鞥の女性たち」(講師・米田)の会場は満員、パワーポイント(作成・杉山)も好評でした。『青鞥』の女性たちは「雲の上のエリート」ではなく、悩みながら自分の道を歩いた女性群像だったこと、東京だけでなく地

域の村や町から参加した個性豊かな女性たちがいたことを、信州を例に紹介すると会場から共感の声が上がり、「うちの県にもこんな人が」とメモする参加者もいました。

いま注目されている「らいてう」

今年はまだ「日韓併合百年」と「大逆事件百年」です。言論抑圧の「冬の時代」に『青鞥』は発刊されました。「自分で考え」「自分の意見をいう」女性に「新しい女」と非難された時代です。そのときひるまなかつた『青鞥』の女性たちの生き方は、今も私たちの心を揺さぶってやみません。最近の『週刊マンガ日本史44平塚らいてう』(朝日新聞出版)や『時代を生きた女性たち』(汐文社)などでも、らいてうがとりあげられ、「らいてうの家」も紹介されています。

来年はその「百年の女たちのメッセージ」を、現代に生かす活動に取り組みたいと思います。すでに2011年9月10日、日本女子大学を会場にアメリカや韓国、オーストラリア、フランスなどから参加を得て国際シンポジウム開催の計画が進行中です。来年発行の『紀要』4号でも特集を組み『青鞥』ゆかりの方がたに登場していただく予定です。

もう一つ、今年らいてうの会が力を入れたのは、らいてうの「平和のこころざしを受けつぐ」

活動でした。らいてうの平和思想は、自らの母としての経験と第一次大戦後の国際的な平和運動をうけとめて出発しているのです。5月、国連のNPT(核不拡散条約)再検討会議に核廃絶を要請する「ニューヨーク行動」に会として参加したのも、九〇年にわたるらいてうの平和への意思を生かしたいと考えたからです。英語で「らいてうのメッセージ」を印刷したカードも配りました。報告集『「らいてう」ニューヨークへ行く!』も刊行。同時代を生きた石橋湛山の平和思想を学ぼうと来年2月26日、山梨平和ミュージアム―石橋湛山記念館理事長・浅川保さんの講演会もおこないます。

「会」の運営は財政状況もきびしく、困難が山積みです。今はらいてうがそうしように、「うしろを振り向かず」前に向かってすすむほかありません。どうぞお力添えください。「風立ちぬ、いざ生きめやも」(堀辰雄)――。

(米田佐代子)

らいてう講座のお知らせ

石橋湛山の女性論―青鞥百年によせて

講師 浅川 保さん(山梨平和ミュージアム・石橋湛山記念館理事長)
日時 2011年2月26日(土)
午後1時30分
会場 東京・未定

見たり聴いたり踊ったり

―地域まるごと「夏祭り」!

「あずまや高原夏祭り」は県からの助成もいただき、会員総出の「アートなかかし」群をはじめ、地元の子どもの作品や高校生の大作、千曲川少年団やほけっと、OIDEYOハウスのみなさんの作品、豪快な野外いけばな、チェーンソーアートのクマたちなど、新しい庭や薬草園ログハウス、あずまや高原ホテル提供の白樺亭などに、ところせましと飾ってにぎわいました。

イベントも、呼び物の「大和田葉子野外フルートコンサート」のほか、「家」では毎日「ミニコンサート」、薬草園ではおなじみジャンベや「一重山太鼓」の力演が続き、数日前にホンモノの熊が出没したという「らいてうの森」笹刈りも「大勢いけばコワくない」と決行。

祭りは延べ1000人の参加で大成功でした。



写真とみなさんの感想をどうぞー。

夏祭りに参加して

案山子作りに参加させていただきました。指導してくださった方の手際よさに助けられ、たくさん想像を膨らませてつくりあげた案山子が街道に並ぶさまは圧巻でした。期間中首をたれて居

眠りをしたり、お隣さんにもたれた案山子が数日後には直立不動、人知れず車を降りて姿勢を正してくださった方がいたのでしよう。たかが案山子、されど案山子、たくさんさんのことを教わりました。

真田らいてうの会 大森 訓子

汗を流した庭づくり、案山子づくりなどなど山荘の仕事が重なり、年齢を感じた夏となりました。でも、木漏れ日の庭でのフルートのさわやかな音色や朗読、ギター、アルパと夏祭りをおおいに楽しみました。今回の県の助成金事業を、これからも地域に役立たせていきたいですね。

真田らいてうの会 木村 見江

案山子作り、初めての作業でしたので、手順が理解できるまで時間がかかりました。また来年もお手伝いしたいと思っています。立てる作業、撤去作業は都合がつかず申し訳ありませんでした。

(ウッディーふく笑い) 来年も利用ください。

やまぼうし自然学校 長谷川 功

らいてうの庭の一角に、千曲川少年団の子どもたちが撮影した昆虫の写真パネルと、案山子を示させていただきました。ささやかな参加でありましたが、それを見にシャトルバスを利用して中学生を連れて行ったり、会員の親子がはじめて家を訪れるなど、らいてうと少年団の協同の一步を築くことができました。冷涼な高原の風、平穏な森の雰囲気、来場者との交流が、炎暑で疲弊した私の体をひととき癒してくれたこともありがたか

つたです。

信州上田千曲川少年団 高須 健

裏方としてアートや案山子を運び、あの広い庭でいろいろな方の作品、とても素敵でした。大和田さんのフルート、緑の森の妖精のようでした。塚田さんのソプラノ、小さい頃から知り合いなので涙ぐみました。天気もよく大勢の方が参加してくださりよかったです。らいてうさん喜んでいかしらね。

上田らいてうの会 竹内 茂子

「かかしの先になにがあるのか?・・・と導かれてたどりついた所がここでした」と、群馬の女性。また、「別所温泉が目的なのに遠回りして寄りました」と埼玉のご夫婦など、たくさんの人とのかわりがうれしい一日でした。

(8月2日の日記より)

真田らいてうの会 松沢 愛子

猛暑の8月、真田、上田の仲間たちと準備から参加した「高原まつり」で、久しぶりに楽しい充実した十日間を過ごしました。まず案山子のお迎えパレードに大感激、この案山子の誘導で、「なに、なに?」と思わず「らいてうの家」までたどり着いた旅行者もたくさんいました。長丁場の「まつりプログラム」は毎日が魅力的で、私はほとんどに参加、鑑賞できて最高の夏でした。

また来年できるといいな。

らいてうの会 木村 康子

アートなかし群たちが「らいてうの家」まで案内してくれました

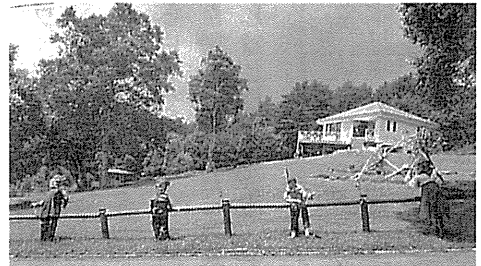


上田草月会の大きなオブジェ

地元出身のソプラノ歌手の塚田日奈子さん(右)のライブ



若い子連れのお母さんたちがたくさん参加してくれました



子どもも総出の一重山太鼓



真田町小学生の作品 (ログハウス)

第22回山宣会で米田会長が講演

2010年10月10日(日) 上田別所温泉

(上田駅より上田電鉄別所線で約30分)

☆碑前祭(午後1時より) 安楽寺境内

☆記念講演 午後2時半ごろより

講師 米田佐代子「山宣とらいてうー大正デ

モクラシーの再発見」

会場 あいそめの湯ホール(別所温泉駅より

徒歩三分) 終了後懇親会

☆参加費 千円 懇親会費 千円

「昔語りの会 菅平に生きて」

「日本で一番寒い」菅平は、江戸時代から開拓地でした。戦後は満蒙開拓団から引き揚げてきて入植、苦労は星の数ほどありました。その体験談を聞きましょう。

とき 10月17日(日) 午後1時半より
ところ らいてうの家 参加費 三〇〇円

アウシュヴィッツ平和博物館は今

小淵真理館長に聞く

今年の日本母親大会は福島。同じ県内(白河市)にある日本唯一のアウシュヴィッツ平和博物館からも、小淵真理館長が参加されました。東北本線白坂駅(無人駅)から徒歩7分、雑木林の中に古民家を移築した建物や、3年前完成したレンガ造りのアンネ・フランクハウスなどが並んでいます。平和を願う趣旨も、NPO法人で運営していること、首都圏から遠い山中にあることなどもらいてうの家と共通していますが、ちがうのは館長さんが若いこと!。その小淵さんに聞きました。

米田「博物館がここに移転開館してから7年、ずっと白河に住んでおられるそうですが。」

小淵「1988年から12年間、全国110都市で「心に刻むアウシュヴィッツ展」を開催、その結



実が平和記念館の建設に繋がりました。はじめ2000年に栃木県でスタートしたのですが、2003年に移転を余儀なくされ、幸い土地提供を

名乗り出た地主さんとの出会いがあり、お金はなかったのですが、たくさんの方の平和に対する思いと情熱で、茨城県にあった古民家を移築して展示室にしました。3年前に増築したスペースで、年4回さまざまな企画展示をしています。米田「アイスキャンドルや平和夏まつりなどの行

事もされているそうですね。

小淵「「夏まつり」は企画展示にあわせたミニ講演会や、朗読劇などとの交流会です。「アイスキャンドル」は、1月のアウシュヴィッツの解放

記念日にちなみ、数百個の氷の火屋にロウソクを灯し、すべての戦争の犠牲者を追悼します。幻想的な光景が広がり、見学者も大勢みえます。(写真下が平和博物館)

米田「運営の人手や資金はどうしていらっしゃいますか?」

小淵「ワーキングプアの有給職員が2人です。ほかに3人の方がボランティアで参加してくれています。公的補助金はありません。入館料・会費・固定寄付・募金などで運営しているので実質は赤字運営で大変です。でも、「縁の下の力持ち」の応援団がいることで励まされています。

米田「いま、日本でアウシュヴィッツを語り伝える意義は?」

小淵「アウシュヴィッツは終わったのだろうか?と伝えたいですね。第二次世界大戦中に起こったジェノサイドですが、私たちの社会に常にある差別や人権の問題から目をそらさず、人間の本质を普遍的に問いかけたい。自分自身を見つめなおす生き方にも通じるものとして。ホロコーストから勇氣や希望に繋がる糸口を見出してほしいと考えています。

米田「来年の日本母親大会は広島です。平和をテーマに、ヒロシマとアウシュヴィッツ、そしてらいてうをとともに語れるといいですね。」



【事務局日誌】

- 6月30日 紀要第3号発行
- 7月13日 第3回理事会開催
- 7月30日 沿道にかかし展示など「あずまや高原夏祭り」準備作業
- 7月31日 夏祭りオープニング。大和田葉子フルートコンサート。8月8日まで各種作品展示や連日ライブなど
- 8月1日 別荘自治会懇親会。子ども祭り
- 8月8日 らいてうの森笹刈り。薬草園で一重山太鼓演奏。庭で中川美保飛び入りサクソフォン演奏。夜満天の星を見よう会。夏祭り終了
- 8月10日 「らいてうニューヨークへ行く!」発行
- 8月23日 奥村直史さんご一家で「家」に来館
- 8月29日 らいてうへの寄贈本など持参される日本母親大会(福島)講座「平塚らいてうと青鞥をめぐる女性たち」に参加。講師・米田、司会・杉山
- 9月4、5日 (東京)「全国女性史研究交流のつどい」に参加 パンプなど普及エクト会議
- 9月6日 「会」と「家」の今後を考えるプロジェクト会議
- 9月10日 長野県健康福祉部主催の「薬草園の有効活用についての検討会」に米田・花岡・杉山・木村(見)出席
- 9月15日 第2回常任理事会 紀要第4号編集会議
- 9月18日 源氏物語講座 講師・宮島満里子さん(於らいてうの家)